

張 兆揚
ZHANG zhaoyang



HOUSE

紙本着彩

HOUSE

この作品は、男性の強さを感じさせる裸体の背中と人目を遠ざけるような回避的な姿勢を合わせて描くことで、強い肉体の中に存在する脆い感情を表現している。一般に、人が裸体になるとき、多くの人の目に触れる環境にはない。

中世から近代以前まで、画家の多くは男性でありヌード表現における対象の多くは女性であった。被観察者である女性は、男性に観察される。このとき、画家は服を着て作業しているが、女性は裸体にされている。このような関係性から、男性が上位の観察者となり、女性は下位の存在のように捉えられる。

私の作品では、そのような観察の視点を覆したいと思っている。女性を上位の観察者、男性を下位の被観察者にすることにより、女性画家から観察される裸体の男性という存在が作り出されている。

作品に描かれている男性の多くが、見る人に向かって後ろ向きの姿勢をとっているのは、「弱さ」を表現するために人目を避けているように見せたかったからである。

私は、表現形式として、男性のヌードを家具のような人工物

に置き換えている。最初にこうした変換の表現方法のインスピレーションを私に与えたのは、小学校での出来事だ。ある日、先生は、みんなに「将来、なりたいもの」という作文を書かせた。翌日、その作文を評価するとき、ある生徒のワークブックを床に投げつけて言った。「あなたの書いたものを見なさい。コンピューターになりたいのですか？人はいつになっても、あるいは死ぬまで、コンピューターになることはありません。」私は、この悲しい記憶を今でもはっきりと覚えている。

人間は死ぬまでコンピューターという人工物には、実際にはなれない。しかし、私は、作品の中であればこの不可能を可能に変えることができると思った。

また、この作品を通して、私は、男性の「弱さ」を表現することで男性の鑑賞者の気を引こうとしたのではない。男性を異性として観察し、男性のヌードを表現手段として、社会における女性の地位や立場について考え、男女平等を追求したいと考えている。

「弱さ」という感情を持つのは繊細な男性だけでないと思う。私は、精神的、肉体的に強い男性も「弱さ」を認め、それを受け入れるべきだということを示したい。